



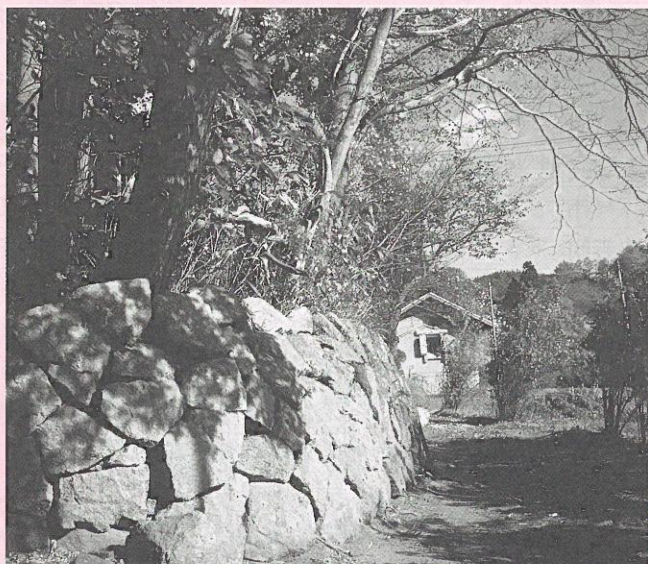
本の素晴らしさを伝えています

われら仲間たち ⑦

図書館ボランティア

「花ぐるま」

図書館ボランティア「花ぐるま」は、現在34人で活動を行い、本に親しんでもらおうと、本の読み聞かせなどを市立図書館を中心に各方面で活動しています。会長の平孝子さんは「絵本などを読むことを通じて本の良さ、中身が深いことを分かってほしい」と話しています。



三浦哲郎ゆかりの家のある金田一温泉・檀沢地区



「宝」を知っていますか。「宝」は先祖から現代の私たちに託された自然や歴史、芸能や技、心のよりどころなどの文化であり、未来へと受け継ぐべき地域資源を指します。

今月から地域の「宝」とそれを生かして輝く人たちについて紹介していきます。

おつ 三浦哲郎 文学の舞台

物でした。劇団四季のミュージカルとなった「ユタとふしぎな仲間たち」は少年と座敷わらしの交流が金田一温泉を舞台に繰り広げられます。こうした文学を地域の「宝」として生かそうと『三浦哲郎文学を読む会』が始まりました。月1回のペースで開かれています（下記を参照ください）。

三浦哲郎文学を読む会

第2回：「ブンペと湯の花」（後半）
期日：2月12日（日）午後2時～4時
場所：ゆのはな交流館（金田一字湯田）
問い合わせ先＝まちづくり推進課 ☎25-5411
シビックセンター内

八戸出身の作家三浦哲郎（74歳）は、文学への志を芽生えさせた21歳の時、金田一温泉で1年間を過ごしています。その時の村（当時湯田村）の暮らしはその後の彼の小説でしばしば引用されることが多く、芥川賞を受賞した「忍ぶ川」のラストは、主人公たちが新婚旅行にK温泉に出かけるシーンで結ばれており、そこは金田一温泉だといわれています。「ブンペと湯の花」は村の1年間そのものが題材となっていて、消防団のラッパ手、ブンペのモデルも実在した人物でした。

谷の斜面は、菜の花でまっ黄色にぬりつぶされていた。ブンペは胸に白い塊を抱きしめて、ゆっくり黄色い傾斜を登ってきた。

これは三浦哲郎の小説「ブンペと湯の花」の一節です。金田一温泉の春の描写といわれています（ブンペは人の名前）。